

3 各種表彰事例の紹介

- 豊かなむらづくり全国表彰事業
- 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰

黒木地区コミュニティ協議会（薩摩川内市）

－多様な資源で新たな価値を創出するむらづくり－



地域のシンボル石倉を利用した直売所



鹿児島市内小学校との米づくり体験交流

■ 地区の概要

黒木地区は、薩摩川内市の北東部に位置し、棚田や農村公園、温泉などの豊富な地域資源を有している。

昭和20年代から計画的に整備された農業基盤により、現在は水稻を中心とした肉用牛・園芸の複合経営が展開され、清流を生かした良質米の安定生産のほか、裏作に飼料作物が作付けされるなど耕地利用率も高い。

高齢化率40.5%と他地区より高齢化が進む中、平成17年に9自治会による黒木地区コミュニティ協議会を設立し、若者や女性、Iターン者なども参加して、地区の活性化に向けた「黒木地区振興計画」を策定し、その実現に向けて地域一体となり取り組んでいる。

■ 推進体制

コミュニティ協議会は、各種事業を行う4つの部会で構成され、地区の運営企画や部会活動の充実及び産業・文化活動の推進に取り組んでいる。

また、地区の拠点機能をもつ「コミュニティ協議会」と地域資源を活かした活動を行う周辺自治会が連携した活動を展開し、コミュニティ機能を強化している。

■ 主なむらづくりの取組

□ 地域の農地は地域で守る取組

高齢化や米価下落を背景に、規模拡大を図る担い手に農地を集積し、WCS用稲や裏作での飼料作物の作付など、水田を有効に活用した営農体系を確立し、水稻と畜産の複合経営の安定化や耕作放棄地の発生防止につながっている。

「地域の農地は地域で守る」住民意識が定着しており、国の交付金なども活用しながら、地区全体を対象にした広域の活動体制を再編・構築することにより、自治会やPTAなどが参加し、地域ぐるみで水路や農道の保全活動が行われている。

□ 地域資源を活かした交流活動の展開

未活用の石倉を再生して「石ぐら直売所」を開設し、高齢農業者等が生産した農産物や加工品等の販売に取り組み、地域内外の住民との交流を図っている。

鹿児島市の小学校との米づくりや農村文化を体験する交流活動が始まり、現在では県外の修学旅行生の受入も行っている。

□ 地域ぐるみで取り組む子育て支援

地区内の小学生の親が中心となり、地区外の若年世帯へ働きかけを行い小学校の児童数を増加させるとともに、新たに学童保育「黒木わいわいクラブ」を設立し、地元酒造会社と連携したオリジナル焼酎の製造・販売により運営資金を確保した。

□ 伝統行事や文化の継承

正月に向けて農産物等を販売する「暮れの市」や伝統芸能である「鷹踊り」を復活させ、住民一体となって積極的に伝統行事や文化を継承している。

■ むらづくりの特徴

担い手農家への農地集積や地域ぐるみの保全活動等により、基幹産業である農業を地域全体で維持・発展させる仕組みが構築されている。

学童保育「黒木わいわいクラブ」でのサツマイモの生産から焼酎の販売までの取組は、運営のための財源確保のみならず、農業を軸に子供達を地域ぐるみで育てる仕組みを構築している。

石ぐら直売所や小学校との農業体験、修学旅行生の受入などの取組をとおして、地域内外の住民との交流促進や高齢農業者の生きがいくくりなど地域に賑わいをもたらしている。



担い手農家への農地集積による生産性向上



復活した「暮れの市」で農産物等の販売



地域運営の学童保育による焼酎用サツマイモの栽培



地域ぐるみの棚田の保全管理作業

か れ い が わ
佳例川地区自治公民館（霧島市）
—大学や企業との連携による地域資源を活用したむらづくり—



大学生からの提案で集落内に「かれがあの焼酎屋」を開店 ウォーキング大会を開催し都市農村交流活動を展開

■ 地区の概要

霧島市の東部に位置し、曾於市大隅町と隣接する佳例川地区は、古くから稲作が盛んな地域であり、由緒ある水田地域である。

地区内には県内で2番目の長さを有する菱田川の源流域を有し、きれいな水を利用した稲作のほか、畜産（生産牛）経営が盛んに行われている。

佳例川地区では、平成21年度から水土里サークル活動を開始し、鹿児島大学学生による農作業ボランティアグループ「農援隊」（のうえんたい）の協力を得ながら、農地・水路の保全や補修等に取り組んでいる。

また、平成24年度から鹿児島大学農学部と連携して、地域資源を活用した活性化を模索する取組を行っている。

■ むらづくりの推進体制

高齢化が進行し、祭りや運動会などの集落行事が縮小されていく中、佳例川地区の将来や夢を語る場として、地区の有志が中心となり、平成7年に「佳例川を語る会」を結成した。

この会の結成をきっかけに、一度は途絶えていた地域行事「お田植え祭り」が復活するなど、地域一体となったむらづくり活動の気運が高まり、地域全体で様々な活動を展開している。

地区公民館は、館長のもと、財産管理部、米・芋部会等からなる9部会のほか、地区運営協議会、地区まちづくり委員会などで構成され、話し合い活動を基本としながら、都市農村交流活動や特産品開発等に取り組んでいる。



65年ぶりに復活させた「お田植え祭り」

■ 主なむらづくり活動

□ 大学生の活力をむらづくりに活かす

鹿児島大学学生による農作業ボランティアグループ「農援隊」と協働で農地保全活動に取り組んでいる。

また、農学部との協働で、地域の活性化に向けた地域農家への聞き取り、史跡などの資源調査、都市住民の消費動向調査を実施した。

調査結果を基にしたビジネスモデルの提案を受け、地元産の希少価値の高いさつまいも蔓無源氏（つるなしげんじ）を原料とする焼酎づくりや情報発信の拠点となる「かれがあの焼酎屋」の開設等は、地区の活性化につながっている。

□ 企業と連携した農産物の販売やPR活動

地元で立地する(株)トヨタ車体研究所と連携し、社員による植樹や社員食堂での地域ブランド米「佳例川源流米」の利用イベント開催など、農産物の販売促進や交流拡大を図っている。

また、連携活動の一つとして焼酎「蔓無源氏」（つるなしげんじ）の購入支援等を実施している。

□ 都市農村交流イベントの実施

鹿児島大学学生や(株)トヨタ車体研究所の若手社員のアイデアをもとに、新米時期に合わせて佳例川ウォーキング大会を開催しており、毎年、地区内外から多くの参加者で賑わっている。

□ 伝統行事の継承

平成9年に65年ぶりに復活させた「お田植え祭り」の開催に当たっては、地域のスポーツ少年団等にも参加を呼びかけるなど伝統芸能を円滑に継承している。



鹿児島大学生による地域活性化策の提案



鹿児島大学生と協働での農作業



企業の社員食堂での佳例川源流米イベント



地元産の希少価値の高いさつまいもを原料にしたオリジナル焼酎「蔓無源氏」(つるなしげんじ)

■ 今後の展開・抱負

休耕田の整備による「田んぼオーナー制度」や空き家を改修した宿泊施設の整備・活用により、交流人口の拡大を図りたい。

蔓無源氏の栽培面積を拡大するとともに、地域ぐるみで有害鳥獣の駆除に取り組み、耕作放棄地の発生防止を図りたい。

佳例川源流米や焼酎「蔓無源氏」の販路開拓、消費拡大に取り組んでいきたい。

■ 表彰理由・講評

様々な団体・企業と連携して、活動の活性化を図り、コミュニティビジネスを展開して自立を目指していくというスタイルは、他のモデルとなるむらづくり活動である。

しもつ こういちろう
下津 公一郎 氏
(NPO法人エコ・リンクアソシエーション)



体験型教育旅行での受入農家と生徒の交流



地域資源マップづくりの支援

県外からのUターン後、自らの出身地である南薩地域を中心に、イベントのプロデュースや地域活性化事業の企画運営を実施し、平成13年にNPO法人エコ・リンク・アソシエーションを設立。現在は、体験型教育旅行の受入れや農村地域の活性化への支援のほか、森林・海等の環境保全活動等に取り組んでいる。

また、平成22年5月に設立した「かごしまグリーン・ツーリズム協議会」の会長としても活動している。

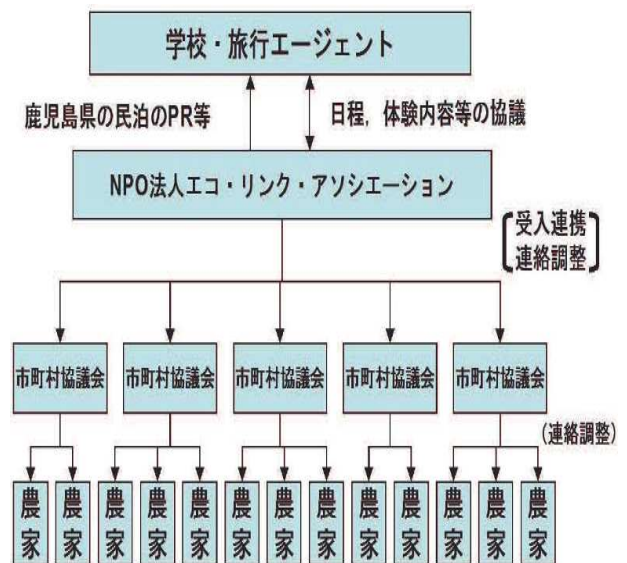
■ 功績の概要

□ 鹿兒島県における体験型教育旅行の受入体制の構築

南さつま市を拠点として、平成13年から体験型教育旅行の受入体制づくりに取り組み、3年後の平成16年に、県内で初めてとなる体験型教育旅行を受け入れた。

その後、南薩地域だけでなく、広域で連携した県全体の受入体制を構築し、現在は、県内ほぼ全域にネットワークが拡大している。

下津氏が代表理事を務めるNPO法人エコ・リンク・アソシエーションは、体験型教育旅行受入れのコーディネーターとして、農村集落と協力して生徒たちを受入れている。



体験型教育旅行の受入体制

□ 体験型教育旅行受入による地域活性化

体験型教育旅行を受け入れることにより、都市農村交流人口の拡大が図られるだけでなく、地域資源の発掘及び見直しを通じた農村集落の一体感や誇りの醸成、体験料収入等による農家の収入機会の確保や地域経済の活性化にも繋がっている。

また、受入れを通して生徒と受入農家が親しくなり、受入終了後も、手紙やメールのやりとりなどの交流が続けられている。

□ 農村集落が取り組むむらづくり活動の支援

地域活性化に関する知識や、これまでの経験・ノウハウを活かし、農村集落や行政と協働して、地域資源の発掘や地域資源を活用したイベントを実施している。

また、今後の持続的な活動に繋がる地域の仕組みづくりにも取り組み、集落の課題解決や取組を通じた活性化が図られている。

□ 高齢者が生きがいを持って農業を継続できる仕組みづくり

平成25年度に南さつま市内の3集落及び鹿児島市の「かごつまふるさと屋台村」と連携して、地域農産物のPRや情報発信、庭先集荷の体制構築に取り組んだ。

この取組を通して庭先集荷の体制が地域に導入され、高齢者の農業生産の再開や、生産者同士の情報交換が行われるようになるなど、高齢者の生きがいづくりや地域コミュニティの再生に繋がっている。



体験型教育旅行での農作業体験



地域住民と協力して地域資源を発掘し、マップに整理



集出荷システム構築による高齢農家の農業生産支援

■ 表彰理由・講評

農村の日常を「地域資源」とする体験型教育旅行を組み立て、他県に先駆けて広域の受入体制の整備や受入誘致に取り組み、南薩地域を拠点に県内全域へネットワークを拡大した。

その結果、毎年約2万人の県外からの学生が県内各地の農村を訪れるようになり、地域経済の活性化や賑わいの形成など、本県の農村地域の活性化に大きく貢献している。

NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会
(鹿児島市)



地域資源の掘り起こし活動



集落と連携した地域資源マップの作成

「地理・歴史・自然をまなび、まちづくりを考える」をキーワードに、鹿児島で育まれた文化を通じて地域が豊かになることを目指して活動している。

これまで見過ごされてきた地域資源の価値や魅力の再発見、県内各地のまちあるきメニューの構築やまちあるきガイドの育成に取り組むほか、かごしまグリーン・ツーリズム協議会事務局として、グリーン・ツーリズムに関する研修会や広報活動等を行っている。

■ 功績の概要

□ 農村集落と連携したむらづくり活動

農村集落と協力し、地域資源を活かした観光マップ作成やツアー実施に取り組むとともに、これまでのネットワークを活かした幅広い情報発信に取り組んでいる。

このような取組により、地域の知名度アップや、住民だけでなく学校、地元企業、周辺地域まで一体となったむらづくり活動が実施され、地域活性化に繋がっていると同時に、地域住民が農村の良さを改めて認識する機会にもなっている。



地域の活性化に向けた検討



地域と協働で作成した地域PRマップ

□ グリーン・ツーリズムの推進支援

「かごしまグリーン・ツーリズム協議会」の事務局として、県内におけるグリーン・ツーリズムを推進するための取組を行っている。

● 市町村組織の活動支援

市町村の推進組織が実施する講習会やイベント等の情報を会員間で共有するためのメーリングリストの運営や、新規推進組織の立ち上げ支援を行っている。

● グリーン・ツーリズムに関する広報

県内各地域における体験メニューや農家民宿を紹介するパンフレットの作成、ホームページの運営、また、グリーン・ツーリズム実践者や興味・関心のある方を対象にフォーラム等を開催している。

● 受入れのスキルアップへの支援

市町村のグリーン・ツーリズム推進組織が実施する研修会へ講師を派遣するほか、自らも講師として参加するなど、グリーン・ツーリズムの人材育成に尽力している。

□ 地域資源を活かしたまちあるきの実施

県内各地で地域の歴史や自然を紹介する「まちあるき」を実施し、地域住民自身による新たな地域の魅力の再発見に繋がっている。

□ 地域の魅力の情報発信

パンフレットの作成・編集やテレビ番組への出演など、様々な媒体を通じて、効果的な地域の魅力発信に取り組んでいる。

また、「世間遺産」（地域の人々が発見し、地域の宝物として位置づける遺産）の考え方を提唱し、地元新聞へ連載されたほか、地域の歴史や地理を紹介する連載や寄稿も数多い。



農家民宿開業研修会への講師派遣



グリーン・ツーリズムパンフレットの作成



集落と連携した地域資源の発掘



キャラクターで集落をPR

■ 表彰理由・講評

地域の潜在力を最大限に活用するとともに、当法人が有する知識やネットワークを組み合わせ、むらづくり活動の実践から情報発信まで、幅広い支援を行っている。

また、かごしまグリーン・ツーリズム協議会事務局として、県内におけるグリーン・ツーリズムの取組の推進にも取り組んでおり、むらづくりやグリーン・ツーリズムを通じた農村集落の活性化に大きく貢献している。